

# Binnen news vol.30 2020. 2

毎月、びんぬんニュースを読んで頂きありがとうございます。  
今回も事例3として、撚糸の事についてお伝えします。

## 事例3) スパン糸とフィラメント糸で撚糸して欲しい

弊社のある備後地域は、織物の一大産地であり、綿100%や綿混のスパン糸(短繊維)の取り扱いが大半となっています。しかし、近年は、差別化した糸を使いたいという要望の高まりもあり、スパン糸(短繊維)とフィラメント糸(長繊維)とを撚糸する依頼も増えてきています。

スパン糸とフィラメント糸では、糸の滑り具合や伸度などが全く異なるので、糸を引き揃える<sup>②</sup> 合糸工程がとても大切です。

フィラメント糸に対応する合糸機も必要となります。

スパン糸とフィラメント糸とを撚糸する事で、スパン糸同士あるいは、フィラメント同士の撚糸では、実現しない機能や風合いのある糸を創る事が可能になります。

昨年、ラグビーワールドカップで話題になった日本チームの「<sup>ワン</sup> <sup>チーム</sup> ONE TEAM」は、メンバー31名の内、15名が外国人選手。異なる国の選手が違う視点、違うアイデアを出し合い、そこにプラスの価値を見出し、結果を出した。今まであまり交わることのなかったスパン糸とフィラメント糸が撚糸加工をする事で、お互いの良さを活かし、新たな特性を持った糸に生まれ変わる。これからは、そんな時代なのかもしれませんね。

—— 備後撚糸は撚糸加工を通して

新たな糸を創造する会社です ——

私達も日本ラグビーチームのような「<sup>ワン</sup> <sup>チーム</sup> ONE TEAM」となり、これまで培ってきた経験をもとに新たな糸創りに

向き合って参ります。 ※<sup>②</sup> vol.20.22 参照

備後撚糸株式会社

Tel 084-958-3355 (代表)

Fax 084-958-3358

<http://binnen-washito.com/>(備和)

